

4/20-26#44 男の子、天での戦い、勝利を得る聖徒たち: **I**「彼女は一人の子、男の子を産んだ。この子は鉄の杖で、すべての諸国民を牧養することになっている。彼女の子供は、神に、神の御座に携え上げられた」(啓12:5): **A**「この「産んだ」は、使徒行伝13:33～34にあるように、復活を表徴します: **使徒13:33** すなわち、神は彼を復活させて、子孫である私たちに、この約束を完全に成し遂げられました。それは詩篇第二篇にも、『あなたは私の子である。この日私はあなたを生んだ』と書き記されているとおりです。 **34** また、神がイエスを死人の中から復活させ、もはや朽ち果てることの中に戻らせることがないことについて、神はこのように言われました、『私は、ダビデのあの聖なるもの、信実なものを、あなたがたに与える』。

1 男の子は、死んで復活させられた勝利を得た聖徒たちから成っています。 **2** これは、啓示録12:11の「死に至るまでも」という言葉で証明されます。 **啓12:11** 兄弟たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さなかった。 **B** 聖書で、女は弱い者を表徴し、男は強い者を表徴します: **1** 啓示録第12章における男の子は、神の民の強い部分を表徴します。 **2** 男の子が鉄の杖ですべての諸国民を牧養することは、2:26～27で述べられたように、男の子が勝利者から成っていることを示しています。 **啓2:26** 勝利を得る者、私のわざを最後まで保つ者には、諸国民を治める権威を与える。 **27** 彼は鉄の杖をもって、陶器を打ち砕くように、彼らを牧養する。それは、私も私の父から権威を受けたのと同じである。 **C** 携え上げられるとは、引き上げられることです: **1** 男の子の携え上げは、1テサロニケ4:17に述べられている大多数の信者たちの携え上げとは異なります。 **1テサ4:17** 次に、生きていて、残っている私たちが、彼らと共に雲の中に引き上げられ、空中で主と会います。こうして、私たちは常に主と共にいるのです。 **2** そこでは、大多数の信者たちが携え上げられるのは、空中に、最後のラッパ、すなわち第七のラッパの時です。 **3** ここで男の子が携え上げられるのは、神の御座に、千二百六十日の前、すなわち第五のラッパの前の第六の封印から始まる三年半の大患難の前です。 **II** 「天では戦いがあった」(啓12:7a): **啓12:7** さて、天では戦いがあった。ミカエルとその御使いたちが、龍と戦ったのである。龍とその使いたちは戦った。 **8** しかし、彼らは勝てなかった。そして、天にはもはや、彼らの場所はなくなっ

た。 **9** こうして、その大きな龍、あの太古の蛇、「悪魔」とか「サタン」とか呼ばれる者、人の住む全地を欺く者は、投げ落とされた。彼は地に投げられ[た]... **A** 男の子が天に携え上げられた直後に、ミカエルとその御使いたちは、サタンに対して戦いを始めます: **1** これは男の子、すなわち神の民のうちの強い部分が、常に神の敵サタンとの戦いに従事していることを示しています。 **2** 彼らは絶えず地上でサタンと戦ってきました。 **3** 天は彼らがそこに到着するのを待って、サタンを天から投げ出すための戦いを起こします。 **4** 聖書は二人の御使いの名、ミカエルとガブリエルを啓示しています。 **5** ガブリエルは報告者であり、神の民に知らせをもたらします。ミカエルは神の民のために戦う者です。 **B** 「龍とその使いたちは戦った」(啓12:7b)。これらの使いたちは、墮落した天使たち、サタンに従って神に敵対した者たちであるはずです。 **C** 神の敵サタンは、主イエスによって十字架上で裁かれました: **ヨハネ12:31** 今は、この世が裁きを受ける時である。今、この世の支配者は追い出される。 **1** その後、勝利を得た信者たちがその裁きを完成し、その宣告を執行する必要があります。 **2** サタンに敵対する勝利を得た信者たちによって戦われる戦いは、實際上、彼に対する主の裁きを執行することです。 **3** 最終的に、彼らの戦いによって、サタンは天から投げ出されます。 **III** 「今、私たちの神の救いと力と王国と、彼のキリストの権威とが来た。私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、彼[悪魔]に打ち勝った。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さなかった」(啓12:10-11): **A** 兄弟たちは、小羊の血のゆえに、彼に打ち勝ちました: **1** サタンは私たちに訴えるかもしれませんが、私たちは神の御子イエス・キリストの血がすべての罪から私たちを清めると答えることができます。 **1ヨハネ1:7** 御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。 **2** 私たちが告白し血を適用した後も、止まらないどのような外見上の罪定めも、神からの啓発ではなく、サタンの訴えです。 **3** 私たちは理由のない訴えを拒絶するだけでなく、理由のあるすべての訴えも拒絶しなければなりません。 **4** 罪を犯すとき、私たちは神の栄光を現しません。しかし、尊い血に信頼しないとき、さらに一層彼を侮辱することになります。 **5** 私たちは常に血を適用し、完全ではないにしても、尊い血の下にいるのであると、悪

魔に告げなければなりません。B兄弟たちは、証しの言のゆえに、彼に打ち勝ちました。1「証し」とは、キリストの中には何があるかを他の人々に告げることであり、また証しの言葉とは、口に出して語られなければならないものです。2勝利者は頻繁にキリストの勝利を宣言して、悪魔が主に裁かれたことを証ししなければなりません。1ヨハネ3:8 ...このために、神の御子が現れました。それは、彼が悪魔のわざを破壊するためです。3サタンは、私たちが彼と論じ合おうとするときは恐れませんが、私たちがキリストの勝利についての霊的事実を宣言するときは恐れます。aイエスの御名があらゆる名にまさるということは、一つの霊的事実です。私たちがそれを信仰によって、人々にだけでなく、またサタンにも宣言しなければなりません。b私たちは、サタンとその悪鬼どもに、イエスは主であり、主は勝利を得ており、サタンは彼の足の下に踏み砕かれたことを宣言しなければなりません。c彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛しませんでした。1アダムの墮落のゆえに、サタンは自らを人の魂の命、人の自己と結合しました。サタンに打ち勝つために、私たちは自分の魂の命を愛さず、むしろそれを憎み、それを否定すべきです。マタイ16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、私に従って来なさい。aサタンは、私たちが自分の力の中で行動し、自分の魂の力、天然の能力をもって自分の中で行動することを願っています。b天然の能力は、私たちが本来持っている、十字架の働きによって決して対処されたことのない能力です。c召会の失敗は、人が自分の天然の能力を持ち込むことによります。d十字架の目的は、私たちの天然の力と能力を対処することです。それは、モーセとペテロの事例で見られるように、私たちがあえて自分で行動しないようになるためです。e私たちが取るべき態度は、どのようなかたちであれ自己によって生きず、自分の能力を評価しないで、何の自信も持たないというものであるべきです。2私たちは自分を犠牲にする人、注ぎのささげ物でなければなりません。そして、天のぶどう酒であるキリストに私たちが満たしていただき、私たちが神にとってぶどう酒とならせなければなりません。a注ぎのささげ物は、キリストが真のぶどう酒として神の御前に注がれて、神を満足させる方であることを予表します。b使徒パウロは注ぎのささげ物となって、聖徒たちの信仰のいけにえと奉仕の上に注がれました。

c注ぎのささげ物は、単にキリストご自身を予表するだけではありません。それは、天のぶどう酒としてのご自身で私たちに浸透して、彼と私たちが一になり、神の享受と満足のために、また神の建造のために注がれたキリストをも予表します。

証啓12:10-11 私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、悪魔に打ち勝った。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さなかった。III.B.3「サタンは、私たちが彼と論じ合おうとするときは恐れませんが、私たちがキリストの勝利についての霊的事実を宣言するときは恐れます」。

私は小羊の血を適用することはよく実行していましたが、証の言葉をビジネスライフにおいて宣言することはほとんど実行していませんでした。その結果、自問自答しているつもりで、気付かないうちに、サタンと論じ合い、会話していました。サタンと会話するたびに内側が真っ暗になっていくのを感じました。このような経験を何度も経過した後、ある時、主の憐れみの故に、「異邦人の同僚と同じように上司の残業と飲み会に付き合い、上司に媚を売らなければ、会社をクビになる」などの感覚が、実はサタンの騙す策略であることに気付きました。そして、サタンとは会話しないこと、また証の言葉をサタンに宣言することを学び始めました、「サタンよ、私から退け! お前の居場所は十字架、アビス、火の池だ! お前は自分の居場所に帰れ!」。私が信仰によってこのように宣言すると、驚いたことにサタンは直ちに退きました。その時、私は、「現実の会社の状況から当然そうだろうと考えていたことが、実は、私自身から出てきたのではなく、サタンからの提案、脅迫、思い煩いであった」と気付きました。私は、今までどれだけサタンの騙す策略に引っかかっていたのかと思いました。啓示録12:10-11によれば、サタンに勝利を得るために、①小羊の血、②証しの言、③自分の魂の命を愛さないことが必要です。私は主と交わりました、「主イエスよ、私は小羊の血と証しの言を持つだけでは足りません。私は更に自分の魂の命を否む必要があります。そうでないと、結局、サタンに騙され、サタンの奴隷にさせられてしまいます。主よ、私を憐れんでください。私が天然の命と能力に頼って生きないようにして下さい」。このような祈りにより、私は徐々に霊的戦いを戦うことを学び始め、サタンに勝ち始めました。